

花に纏わる物語

その1:合歡の花



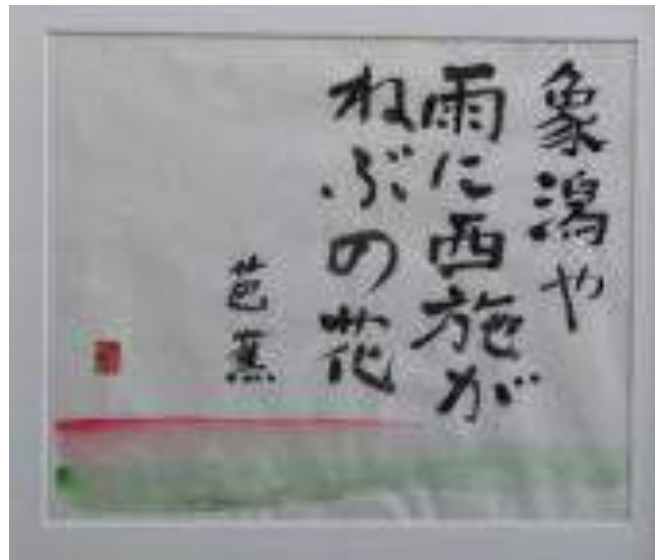




松尾芭蕉 奥の細道

五月雨を あつめて早し 最上川

象潟や 雨に西施が ねぶの花



芭蕉が俳句にまで詠んだ “西施”

ってどんな女性？

中国四大美女

西 施 （ 沈魚美人） 紀元前500年ころの人

王昭君 （落雁美人） 紀元前150年ころの人

貂 蟬 （閉月美人） 西暦 200年ころの人

楊貴妃 （羞花美人） 西暦 700年ころの人

西施が生きた時代

呉と越の抗争・興亡の時代、呉と越の狭間で生きた女性。

越国から密命を帯びて、呉王・夫差に献上され、その密命を成し遂げたことで、国を滅亡に導いた。

傾国の美女とも言われている。

我田引水 呉と越が抗争するようになった事件。

呉越同舟 例え犬猿の仲でも共通の困難には協力しあう。

臥薪嘗胆 呉王・夫差の臥薪、越王・勾踐の嘗胆

顰に倣う むやみに人の物まねしても、身に付かない諫め。
顰とは眉間のこと。

花に纏わる物語

その2 ヒナゲシ

別名 虞美人草





ときは紀元前200年ごろ、秦が滅んで 楚・漢抗争の最終局面

楚の項羽vs漢の劉邦 が垓下で対峙したその時、
敵陣(劉邦軍)から聞こえてくるのは楚歌ばかり。

“ 四面楚歌 ” の出典

自陣に居る筈の楚人が皆敵陣にいることを知った項羽は、戦いも最早これまでと悟り、愛人・虞美人と別れの宴で剣舞し、吟じた詩。

力拔山兮氣蓋世 力は山を抜き 気は世を蓋う

時不利兮騅不逝 時利あらず 騅 逝かず

騅不逝兮可奈何 騅の逝かざるを 奈何にせん

虞兮虞兮奈若何 虞や虞や 若を奈何にせん

後世、この地に美しい花が咲くようになった。土地の人が虞美人を偲んでこの花を“**虞美人草**”と呼ぶようになった。